

(別紙) ゴキブリ駆除要領

駆除方法		使用薬剤		散布基準	実施対象	注意事項
残留塗布法	ゴキブリの通路に残効性の長い殺虫剤の乳剤か油剤を刷毛又は筆で幅 5～10cmの帯状に塗布する。	フェントロチオン ダイアジノン フェンチオン 等	有機リン系殺虫剤の乳剤、油剤	乳剤は 5～20 倍液 油剤は原液	住宅の台所 食堂 事務所の湯 沸し室等の 小規模施設	①食物は、あらかじめ別の部屋に移し、直接殺虫剤に接触しないようにすること。  ②食器・引出し・引戸の取っ手になどに殺虫剤がかからないようにすること。
	塗布場所は台所の調理台や流し・ガスコンロの下・水屋・戸棚の中・引出しの側面及び裏面・冷蔵庫・レンジのうしろ等。	フェントリン ペルメトリン 等	ピレスロイド系殺虫剤の水溶性乳剤			
		プロポクスル	カーバメート系殺虫剤の油剤			
残留噴霧法	上記と同様の場所に噴霧器を使用して帯状に散布する。	同 上		同 上  50 ml/m <sup>2</sup>	台所・レストラン事務所・寮の食堂・調理場等比較的大きな施設	③乳剤は、希釈後直ちに使用し、残った場合は適宜処分すること。  ④使用後は、手・衣類・マスク等はもちろんのこと容器・器具も洗剤を用いてよく洗うこと。
	なお、引出しの奥・流し台の下(配水管の周囲)・調理セットと壁の間へも霧を吹き込むことにより効果があり、ゴキブリ用エアゾールが市販されているので利用してもよい。	上記有機リン系殺虫剤とフタルスリン、レスメトリン等のピレスロイド系殺虫剤との混合剤も市販されている。				
煙霧法	油剤を煙霧器にかけてガス状にする方法で、器物を濡らしたり、汚損することが少なく、手軽に屋内害虫を駆除することができる。	ジクロロボス 等	有機リン系殺虫剤の油剤	2～3 ml/m <sup>2</sup>	住宅・店舗・事務所・倉庫等の大きな施設  また、天井・床下・ダストシュート・下水管等	
	速効性であるが残効性がなく、上記残留処理法との併用が望ましい。	フタルスリン レスメトリン 等	ピレスロイド系殺虫剤の油剤			
		上記2種(有機リン系・ピレスロイド系)の混合油剤も市販されている。				
超微量散布法	高濃度微量散布法と呼ばれ、従来の低濃度多量散布に対し、ULV(超微量散布)と略称されている。  ULV散布器により細かい粒子(1～15 ミクロン)の霧を室内空間の隅々に満たすことができる。	フェントリン ペルメトリン 等	ピレスロイド系殺虫剤の水溶性乳剤	1～2 倍液  2～3 ml/m <sup>2</sup>	同 上	
毒餌法	ゴキブリが好む餌に有機リン系殺虫剤、ホウ酸等を混ぜた毒餌(固形・粉状)が市販されている。	トリクロロホン フェントロチオン 等	有機リン系殺虫剤を含む		同 上	乳幼児の手の届かない所に配置し、誤食のないように十分注意すること。
トラップ法	ゴキブリ駆除(捕集)用のトラップが各種市販されている。				同 上	この方法だけでは完全な駆除は望み得ないため、上記方法との併用が必要である。

(注)なお、薬剤の選定にあたっては、薬剤抵抗性を獲得させないように留意してください。

## 殺虫剤使用上の注意事項

- 1 人や環境に対する影響を可能な限り少なくするよう配慮すること。  
そのため、発生源対策、侵入防止対策等を併せて行うこと。
- 2 殺虫剤の使用説明書、ラベル等をよく読み、用法、用量、注意事項を守って正しく使用すること。
- 3 殺虫剤(特にエアゾール・油剤)は火気を避け、子供の手の届かないところに保管すること。また、直射日光のあたる場所や高温多湿の場所での保管は避けること。
- 4 殺虫剤(特に乳剤)を空ビン・空カン等に分けたときは、飲物、特に牛乳等と間違えて誤飲することがあるので取扱いに注意すること。
- 5 殺虫剤を取扱うときは手袋・マスク等を使用するとともに、作業後には石けんで手や露出部をよく洗うこと。
- 6 食品、食器、おもちゃ、ペット動物、飼料等に殺虫剤がかからないようにすること。
- 7 殺虫剤散布後は、室内の換気を十分に行うこと。
- 8 使用後の殺虫剤、器具、空ビン、空カン等は完全に処理すること。
- 9 万が一誤飲したり、散布後身体に異常を感じたときは、ラベルに表示された主成分の名称を告げて、直ちに医師の診察を受けること。